

TUBA LAND

プログラム 2025

はなまるホーム浅草北



みみよりな
ひととき、
今日もはなまる

TURN LANDでは、
アーティストと福祉施設が協働し、
日常の中に、人と関わるきっかけをつくる活動を行っています。

プレLAND2年目となる
はなまるホーム浅草北でひらかれているのは、
音楽をきっかけにした社交の時間。
演奏を聴いたり、思い出の話をしたり、
ただ音のそばで過ごしたり。
聴く人、話す人、静かに過ごす人。
それは、それぞれの居方にはなまるがつく時間。

はなまるホーム浅草北

台東区にある高齢者向けの認知症対応型グループホームです。暮らしのリズムを大切に、職員が社会参加を支援しながら、入居者同士が支え合い穏やかに生活しています。



クラリネット奏者
島田 明日香 Asuka Shimada

東京藝大卒。コンクール1位や藝大フィルとの共演等、確かな研鑽を積む。2022年より本事業に参画。確かな演奏技術に加え、対話から個を引き出すMCやユニークな発想力により、心動かす体験を創出する。



作曲家、編曲家、ピアノ奏者
松岡 美弥子 Miyako Matsuoka

東京藝大大学院修了。「未来古代楽団」メンバー。ゲーム『モンスターハンターパズル』やドラマ音楽を手掛ける。2024年より本事業に参画し、自在な表現力と編曲技術で場の空気を一変させ、豊かな音楽体験を構築する。



造形作家
サカタ アキコ Akiko Sakata

舞台美術や国内外の芸術祭で活動。ブランド『DIET CHICKEN』主宰。旧博物館動物園駅の巨大ウサギ常設作品が話題に。2025年より本事業に参画し、衣装や美術で日常を非日常に変え、人々を異世界へ誘い喜ばせる。

はなまる 社交界

普段同じ建物に暮らしていても、
同じプログラムを一緒に受けていても、
知ることのない奥行きのある一面が、人にはきっとある。
一人一人が忘れかけていた「自分」が新たな仲間と出会い、
おしゃれしてお辞儀する。少し緊張して声を掛け合うような
「社交界」の時間をグループホームにつくれたら……。
そんな夢を見る島田明日香とともに、利用者と職員が心躍る
「アートなひととき」を目指しました。

TURN LAND プログラム事務局
一般社団法人
谷中のおかって Yanaka no okatte

多様な人々がアートプロジェクトを
運営する際の伴走サポートや、より多くの人々が
個々のアーティストの世界観に出会い
協働できるような状況をつくるチーム。



1分間の活動紹介動画



START

はなまるホーム浅草北施設長の鈴木さん

今年は何にする？

はなまるホーム浅草北に施設長とアーティストの島田明日香、事務局メンバーが集合。

5月

6月 8月

島田は鈴木のとれざる一面を会話から引き出し、「耳があるかわいいキャラクター」の制作をリクエスト。

はなまるホーム浅草北で暮らすみみ親分の誕生。

鈴木が描いたウサギの候補の中から、島田はサングラスと髭のあるウサギを選び、「みみ親分」と名付けた。

9月

施設環境や利用者へ合ったプログラムの開発。

作曲家の松岡美弥子と造形作家のサカタアキコがプロジェクトメンバーに加わり、個々との対話を楽しめる新たな「演奏会」の形式を模索した。

10月

PLAY THE PIANO AND THE CLARINET



演奏会の形式をとることで参加者に安心感を与えつつ、一人一人との対話を重視した新しい「社交界」を開発することを目指す。

島田と松岡は「みみ親分」の被り物を身に付け、本事業の公開イベントである「TURN LANDミーティング+(プラス)」にて開発中のプログラムをお披露目。

11月

利用者さんと歌の練習。

島田とサカタが施設を訪問し、民謡歌手として活動していた利用者ミカさんと、最近入所された利用者藤田さんと交流。利用者の特性や一人一人の個性をプログラムに反映。

12月

サカタが制作した「みみ親分」の被り物は社会的立場からみんなを開放し、自由な気持ちにしてくれる。

FINISH

「はなまる社交界」を開催。利用者や職員も「みみ」をつけ思い思いに音楽を楽しんだ。

はなまる社交界

ができるまで

アーティスト、施設の職員、利用者の皆さんとの交流がそれぞれの特性を活かしたアートプログラムをつくりあげます。



鈴木さんが描いたみみ親分



I AM MIMI-OYABUN!



mika-san

Fujita-san



DOKI DOKI

WAKU WAKU



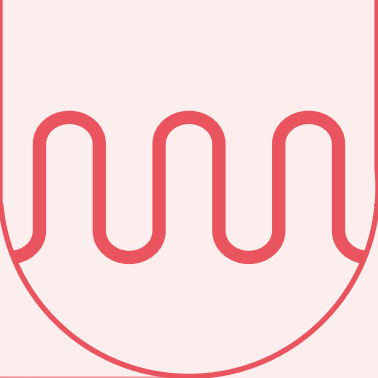
聴く人、話す人、そばにいる人
ただ音のそばにいる人
思いがけない“わたし”が
顔を出す

演奏会

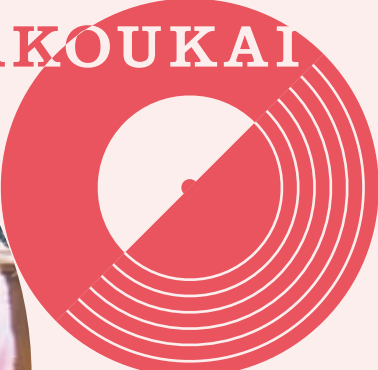
HANAMARI
SHAKOUKAI



利用者の気分やリクエストに、
柔軟に反応するアーティストたち。
さまざまな楽曲が演奏され、懐かしい音色に
涙を流す利用者の姿もありました。



LISTEN

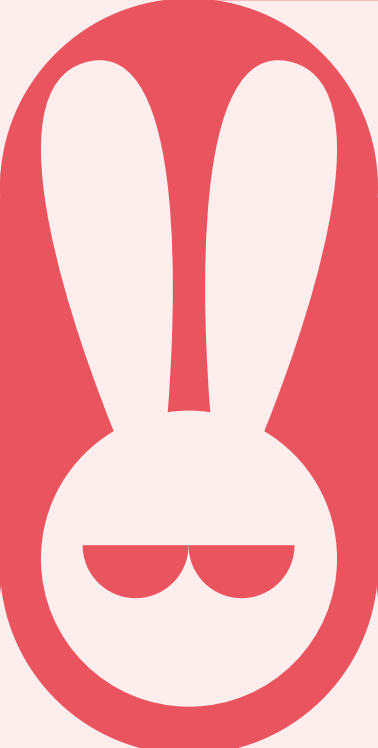


音楽家のバックアップで
元民謡歌手の
ミカさんが復活！

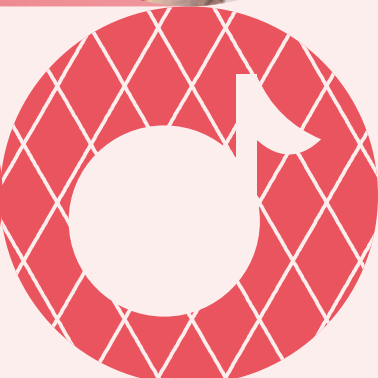


社交界の終了後には、
施設と利用者からアーティストへ
花束がプレゼントされました。

SING!



終盤には、みんなでうさぎの
耳を身につけ、手拍子しながら
リズムに乗るなど会場全体が
大盛り上がり。



VALUES

**利用者
にとって**

生きがいの創出と
選択の尊重につながった

「この上なく楽しい」「次回が待ち遠しい」と振り返りました。参加するか自分で選べることで、日々の生活に主体性と喜びが生まれました。民謡や応援など利用者自身の経験や得意なことも自然に活かされました。

**アーティスト
にとって**

実践を通じたスキルと
技術の向上につながった

交流を通じてコミュニケーションによる共創を学びました。演奏に加え場づくりや進行も担い、反応に合わせて流れを変え、出来事を音楽に昇華する経験が、音楽家としての総合力向上につながりました。

**職員
にとって**

異文化交流と
日常の質の向上につながった

業務を超えた文化体験は、海外出身の職員にも親しみやすい交流の場となりました。新たな一面が見えることで、職員間の新しい会話も生まれ、日々のケアや場の安心感にもつながっていきます。



島田 明日香
(アーティスト)

「介護から学んだ即興力」

施設長の鈴木さんから学んだ「1日の中に何度でもチャンスがある」という言葉に勇気をもらいました。一度拒絶されても諦めず、角度を変えて何度でも語りかける。その粘り強さが利用者さんの心を開き、共に場を創る「社交」の鍵だと実感しました。介護の作法から得た学びが、私の即興力を引き上げてくれました。



ミカさん
(はなまるホーム浅草北利用者)

「とにかく嬉しい」

この施設のみんなの前で歌ったのは初めてで、大成功！民謡歌手の頃の苦労も報われた思いです。諦めずに続けて本当に良かった。アーティストの方たちは夢を叶えてくれるし、最高のお友達が増えたようで、幸せです。孫に自慢したいです。これからの夢が広がりました！



サカタ アキコ
(アーティスト)

「みんなの心踊る姿に感激」

男性もサングラスをかけたり、胸のポケットにしまったり。予想以上の着こなしに驚きました。音楽が流れた瞬間にその世界観へ一気に引き込む、音楽の力は本当に凄いと羨ましく思います。あんなに皆が喜ぶ姿が見られて、私自身も幸せでした。



TURN LAND
プログラム事務局

「連携が生む豊かな広がり」

2年目でここまで濃密な体験をつくれるとは驚きました。去年は島田のポスターをつくったり、今年は「みみ親分」のキャラクターで施設の1日の流れを掲示するなど、本事業での出来事を職員の皆様が日々の介助に活用し、面白がってくださるのが何より嬉しいです。



鈴木 裕也
(はなまるホーム浅草北施設長)

「個性引き出す理想のケア」

入居者が3年目で初めて踊る姿を見て、アートを引き出す力には驚きました。介護の作法に通じる「嫌じゃない強引さ」で個々を引き出す体験は、他の職員も未体験の理想的な形です。介護の技を融合した新しい演奏会のあり方に、現場の支援としての大きな可能性を感じました。



松岡 美弥子
(アーティスト)

「みんなでつくる、心通う演奏会」

単なるリクエスト演奏に留まらず、利用者の思い出を汲み取り一対一の対話を重ねる明日香さんの技術に感動しました。一対全体ではない、参加者との双方向のやりとりってありなんだな、と。「うさ耳」が変えた空気感や、事前に利用者の好きな曲を聞き出す職員との連携も効果的でした。

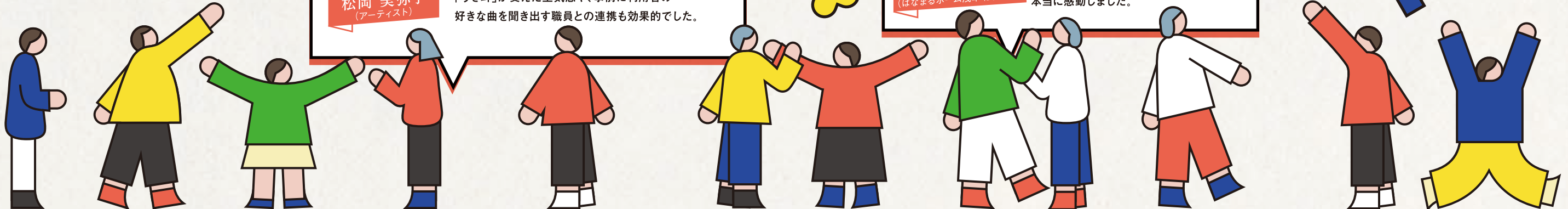


藤田さん
(はなまるホーム浅草北利用者)

「故郷を思い出した」

施設に入ったばかりで、今回初めて演奏を聞きました。娘から施設長が聞き出して教えてくれて私も思い出したんです。故郷の民謡である小原節を演奏してもらって、みんなで歌って踊って。本当に感動しました。

MEMBERS' COMMENTS



TURN LAND

ってなに？

福祉施設などを拠点に
アートプロジェクトを行う
文化事業です。

誰がやってるの？

東京都、アーツカウンシル東京、一般社団法人谷中のおかってが
共催する事業です。東京都内にある福祉施設や福祉事業所を拠点に、
その施設に出入りする人々（職員や利用者、その家族や地域協力者など）と
プロジェクトチームをつくり、力を合わせてアートプロジェクトを
企画・運営します。

どんなアーティスト？

音楽やダンス、演劇、映像、手工芸など
表現のジャンルはさまざま、その場に関わる人々との
コミュニケーションを楽しみ、交流を通じた
新たな手法開発に前向きな姿勢がある。

なぜアート？

共創型のアートプロジェクトでは、
「作品」をつくるだけではなく、
そこにいる人々と「アートなひととき」を
つくることができます。
これは文化のアウトリーチでもあり、
医学的ケアを超えて、誰もが「人」として
社会参加できる文化的な時間をつくる
挑戦です。

なぜ福祉施設でやるの？

障害のある方々が落ち着いて
時間を過ごせる環境
(設備や習慣、人との関係)がある。

個々の障害特性と向き合うことで、
障害をこえて一緒に楽しめる
プログラムが開発できる。

さまざまな理由で文化施設などに
行くことができない
障害のある方たちにアートを届ける。

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京、一般社団法人 谷中のおかって
発行：2026年3月25日
アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
※営利・非営利を問わず、当資料のコンテンツを許可なく
複製、転用、販売など二次利用することを禁じます。



TOKYO
METROPOLITAN
GOVERNMENT



©TURN LANDプログラムの
公式ホームページ



©TURN LANDプログラムの
他の活動をチェック

